

アスクル株式会社とのMizuho Eco Financeの契約締結について

～日本銀行の「気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション」の枠組みを活用～

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、アスクル株式会社（代表取締役社長：吉岡 晃、以下「アスクル」）との間で「Mizuho Eco Finance」（※1、以下「本商品」）に関する融資契約を締結しました（※2）。

本件は、日本銀行の「気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）」（※3）の枠組みにおいてみずほ銀行が気候変動対応に資すると判断する融資案件であり、「温室効果ガス排出削減目標（Scope1+2）」を評価指標として設定しています。

みずほ銀行は、お客さまとの積極的な対話（エンゲージメント）を通じて課題やニーズを深く理解し、お客さまのSDGs・ESGへの取り組みやイノベーションをサポートするため、多様なソリューションの提供に積極的に取り組んでいます。

本商品は、脱炭素社会への移行に向けてお客さまとともに取り組みを促進していくことを目的に、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社が開発した環境評価モデルを用いてお客さまの取り組みや指数をスコアリングし一定のスコア以上を満たしたお客さまに対し融資を行う環境評価融資商品です。

なお、評価手法を含む本商品のフレームワークについては、株式会社日本格付研究所（JCR）から環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に整合する旨の意見書を取得しています（※4）。

みずほ銀行は、アスクルがTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）への賛同を表明していることや、国際的な温室効果ガス排出削減目標であるSBT（Science Based Targets）の認定を取得していることなどから、本商品の評価モデルに使用している指標を高い水準で満たしていると判断し、今回の契約締結に至りました。

みずほ銀行は、気候変動対応や脱炭素社会への移行など、持続可能な社会の実現に向けた取り組み（サステナビリティアクション）を強化しています。環境・社会課題解決に向けた資金の流れを創出するサステナブルファイナンスや金融を超える知見・機能を活用したソリューション提供を通じ、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）に向けて、お客さまとともに挑戦していきます。

※1：「Mizuho Eco Finance」

2019年6月28日付ニュースリリース「『Mizuho Eco Finance』の取扱開始について」

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20190628release_jp.pdf

※2：アスクル株式会社ニュースリリース「みずほ銀行と「Mizuho Eco Finance」融資契約を締結」

<https://pdf.irpocket.com/C0032/Z6af/M7Af/NRHA.pdf>

※3：気候変動対応を支援するための資金供給オペレーション（気候変動対応オペ）

本枠組は民間における気候変動対応を支援するため、日本銀行が資金を貸付ける資金供給オペレーションです。みずほ銀行は本枠組の対象先に選定されており、温室効果ガス排出量の削減に資するお客様の取り組みを、ファイナンスを通じ支援しております。詳細については以下リンクをご参照ください。

https://www.mizuhobank.co.jp/release/pdf/20211201release_jp.pdf

※4：株式会社日本格付研究所のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以 上